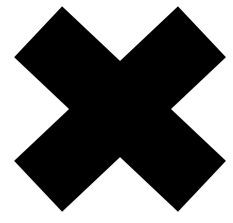




SDM-Japan



揺れるところが見える化する

TalkingMats



トーキングマットフレンズの会



2023年11月4日(土)

10:00~12:00

Zoomによるオンライン方式

参加費：3,000円

<https://sdm-japan.net/what-we-do/talking-mats/>

トーキングマットを知り、もっと活用していただくために

【当日の内容】

- ①リハビリテーション／介護
予防領域での活用事例
- ②トーキングマット実践者と
ともに何でも語り合おう
(参加者同士の交流会)

トーキングマットフレンズの会は、トーキングマット基礎研修を修了された方はもちろんのこと、「トーキングマットって何だろう」「どんなときに使えるの?」「トーキングマットを使ってみたい」など、トーキングマットに（少しでも）関心のある方であればどなたでもご参加いただけます。

今回は、**虚弱高齢者や脳血管疾患後遺症のある方、神経難病のある方**を対象にトーキングマットをどのように活用しうるのか、というテーマで話題提供をいたします。そのうえで、参加者同士がフラットな関係性のもと、トーキングマットについて自由に質問しあったり、議論しあったりする交流の時間を多く設ける予定でおります。「**トーキングマットをもっと知りたい**」という思いをお持ちの方は、奮ってご参加ください。

お申込み方法

peatixサイトより

<https://peatix.com/event/3715792/>



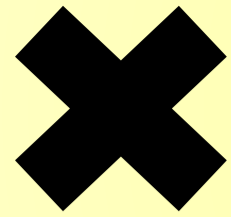
※peatixより申込できない場合は、メールにて

m.ichikawa1121@sdm-japan.net
宛にご連絡ください。



*クラウドファンディングサイト「READYFOR」にて、詳しい説明をご覧ください。





誰もが「自分の意思表示ができる!」を目指しています

SDM-Japanは、障害のあるなしにかかわらず、誰もが、自信と誇りをもって、心からの希望に基づく意思決定と可能性を追求できる社会を目指している非営利徹底型の一般社団法人です。

主たる活動としては、「意思決定支援」をテーマに、認知症のある人や知的・精神障害のある人が自ら意思決定ができるように、あるいは意思表示そのものが難しくてもご本人の想いや価値観を支援者が読み取ることができるよう、支援者の支援スキルを高めるための各種研修等を提供しています。

構成メンバーは、行政・司法・福祉・医療・教育機関及び民間企業など様々な分野に所属しております。当団体の活動は、日本財団の助成金及び各方面からの寄付によって成り立っています。詳細は、ホームページをご参照ください。

(<https://sdm-japan.net/>)

トーキングマットの使い方

トーキングマット(Talking Mats™)は、1998年に、スコットランドのスターリング大学研究者が開発したコミュニケーション支援ツールです。主にソーシャルワーカーやアドボケイト、SLT(言語聴覚士)などの専門職が、認知症の人、学習障害・知的障害のある人、その他記憶保持やコミュニケーション等に支障がある方に対する支援策として活用されています。WHO(世界保健機関)のICF(国際機能生活分類)モデルにしたがって、自宅での過ごし方、外出先の過ごし方、セルフケア、仕事、お金の使い方、医療に関する事など様々なテーマが設けられています。

ちょっと難しそうに見えますが、右の7つのルールを踏まえていれば、あとはあなたの工夫次第で自由に使ってOKです。



▼トーキングマットの使い方：ポイント7つ

①イントロダクション(紹介)

今回のセッションを行う目的を説明します。

②トップスケールの説明

指標を設定します。ご本人のどのような気持ちを見たいかによって、設定される指標は異なります(例えば、「好き・・・嫌い」と「やりたい・・・やりたくない」とでは、同じカードでも置かれる場所が異なるかもしれません。)

③カードを手渡す

マットを本人の正面に置き、本人自身の空間を作りましょう。一つ一つオプションシンボル(選択肢カード)を手渡していきます。

④気持ちの表出を促すためのオープン・クエスチョン

カードを渡す際に「～はどうですか?」と伝えるようにし、できるだけクローズドな(Yes/No)質問を控えます。さらに、置かれたカードから本人の価値観の傾向を探るために「誰と」「どんなときに」といった具体性のある質問も行います。

⑤ブランク(空白)カードの活用

他においてみたいカードがあるかを確認し、希望があれば付せんなどで新しい選択肢を作ります。

⑥結果の確認と変更

聞き手が本人の伝えたいことを理解できているかを確認します。必要に応じて、一旦置いたカードの位置を変えることもできると促します。

⑦記録と行動計画

置かれたカードの一部を実行に移すかどうかの検討を行います。さらに選択肢カードのうちの1つをテーマにして、さらに掘り下げていくという方法もあります。

トーキングマット 🔍

【問い合わせ先】

一般社団法人日本意思決定支援ネットワーク
(SDM-Japan) 事務局

050-5534-4004 info@sdm-japan.net

